

ASI-NET 作業部会

1. ASI-NET から運航安全のための提言を行い対策が検討されています。

ASI-NET では、運航乗務員の皆さんから提供していただいたヒヤリハット情報を分析して潜在する不安全要素を抽出し、その対策等について関係機関に対し提言や要望を行っています。今号では直近の平成 20 年 21 年に出された提言について紹介します。

(1) 管制交信における齟齬の防止についての提言 (平成 20 年)

2008 年 (平成 20 年) 2 月に新千歳空港で離陸許可を受けないまま離陸滑走を開始するインシデントが発生し、その要因として管制から提供された情報とパイロットが認識した情報に齟齬があったことが判明しております。一方、ASI-NET への管制に関する報告件数は、パイロットのヒューマンエラーに係るものに次いで多く、その中でも出発時における発生事例が最も多く報告されています。これには、出発時において短時間に多くのタスクが集中する中で管制とのコミュニケーション頻度が高まること、発着便の多い空港においては、類似便名や複雑な誘導路による影響等がその要因として考えられています。ASI-NET 委員会ではこれについて、管制官とパイロット間の相互理解と共通認識の観点から、管制機関・事業者を含めた総合的な防止策が必要と考え、管制に関するスレットやハザード情報を一元的に収集分析し、各航空会社や管制当局も参画して有効な対策を策定するための仕組みを航空局が主体となって検討する旨、提言致しました。この提言実現のための一助として、今後は ASI-NET 作業部会と航空局間で情報共有を図る場を継続的に設けることとしています。

(2) 誘導路名称等の空港施設に係わるハザード解消についての提言 (平成 21 年)

2009 年の大型機 ASI-NET への自発的報告を飛行フェーズ毎に解析すると地上滑走での報告が全体の報告数 119 件中 53 件と最も多くこれらの報告の多くは運航乗務員の地上施設に関する思い込み・錯覚や見間違い、管制の適切でない指示(内容、タイミング)や誤指示が挙げられますがこれに至ったハザードを解析すると複雑な誘導路形状や、間違いやすい誘導路名称等、施設に関する問題が多いということが結論付けられます。これらの解析結果を踏まえ ASI-NET 運営委員会では、航空機が地上走行時乗員の受動的エラー (誤認・誤解) を引き起こす可能性のある下記の 4 つの空港の空港施設における事案について空港毎に提言をいたしました。

－ 記 －

東京国際空港（羽田空港事務所）

- ・誘導路 W7 に関するハザード解消

関西国際空港（関西国際空港株）

- ・誘導路 A10～13 の経路で A12 を見過ごす可能性があるハザードの解消

那覇国際空港（那覇空港事務所）

- ・誘導路 E0 から続く誘導路名称に関するハザードの解消

成田国際空港（成田国際空港株）

- ・誘導路（誘導経路）の誤認、誤進入防止のため、C 誘導路と A 誘導路が交差する付近の複雑で解りにくい誘導路部分の改善

ASI-NET とは

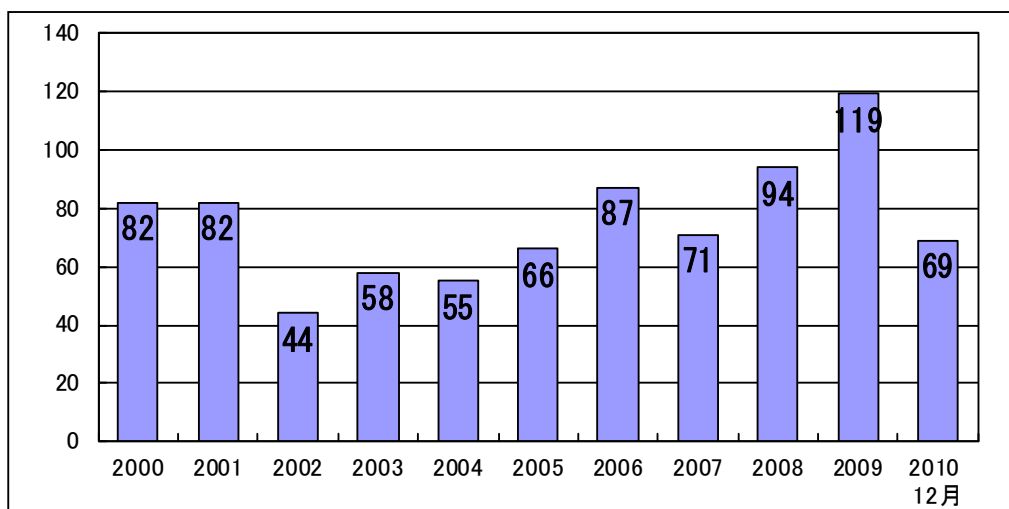
航空安全情報ネットワーク（**Aviation Safety Information Network**）の略称で、大型機と小型機の2つのネットワークが現在活動しております。大型機については1999年（平成11年）12月に設立され、本邦航空会社17社*が参加(平成22年10月現在)しております。大型機ASI-NETには運航乗務員の皆さんが所属会社の安全報告制度に報告したヒヤリハット情報や機長報告等の中から、他社の運航乗務員と共有することが望ましいと思われる情報が参加各社より提供されています。この情報を参加している会社間で共有するとともに、情報の分析により潜在する不安全要素を抽出し、その対策等について関係機関に対して提言や要望をすることで、運航の安全に寄与することを目的としています。ASI-NET(大型機、小型機)は有識者、航空会社の代表、航空関係団体の代表による一つの運営委員会の基で運営され、システムの維持・管理はATEC((財)航空輸送技術研究センター)で行っています。

* 日本航空インターナショナル、全日本空輸、エアーニッポン、日本貨物航空、日本トランスオーシャン航空、ジャルウェイズ、ジェイエア、琉球エアコミューター、ジャルエクスプレス、スカイマーク、日本エアコミューター、天草エアライン、北海道国際航空、ANA ウイングス、IBEX エアラインズ、スカイネットアジア航空、オリエンタルエアブリッジ（加入順）

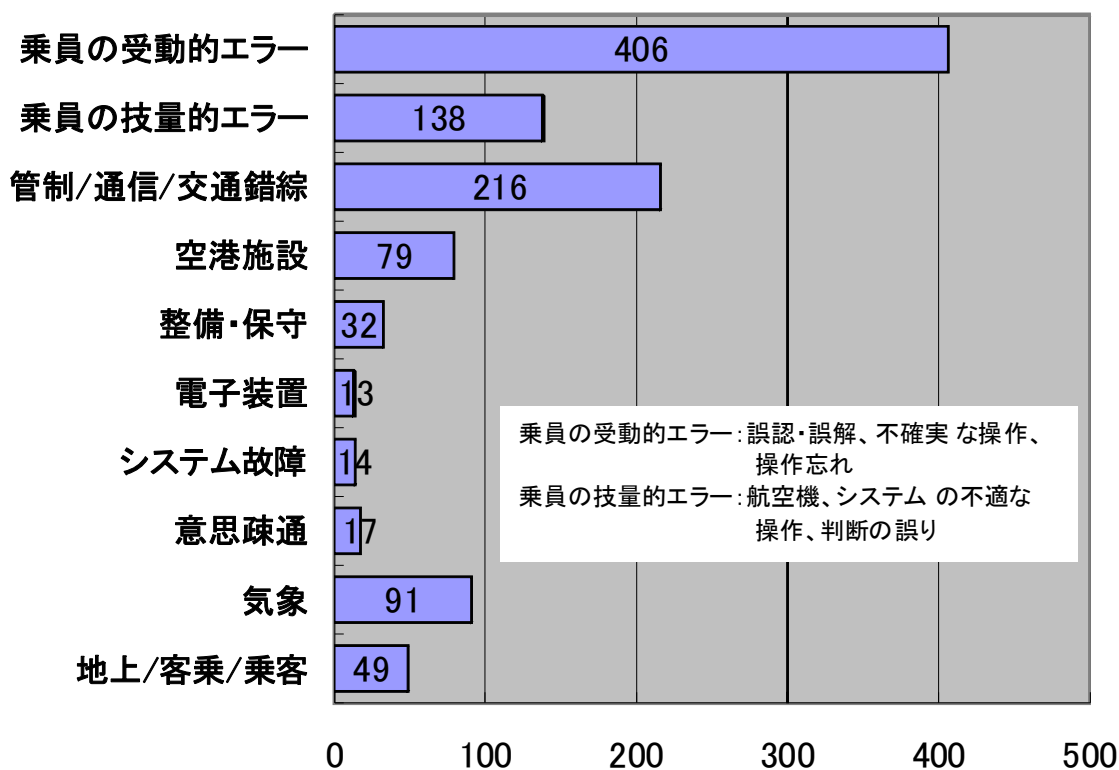
これまでに集った情報の数と分類

2010年度12月までに大型機ASI-NETに提供された情報の数と要因ごとに分類した結果は下図のとおりです。

図1 大型機ASI-NET 情報数(暦年)



報告件数上位10項目2010年12月まで(その他を除く)



報告者の保護について

報告者の保護に関して航空局の方針が航空局技術部長通達（国空航第 1272 号、平成 16 年 3 月 29 日）の形で文書化されています。この通達には、ASI-NET に報告された情報に対する取り扱い方針が次のとおり示されています。

- (1) 航空局は、ASI-NET に提供された情報に直接アクセスすることはない、また、ASI-NET に対しこれらの情報の提供を求めることもない。
- (2) 航空局は、何らかの経緯により ASI-NET に登録された情報を知ったとしても、当該情報のみにより行政処分を行うことはなく、行政処分を目的として更に ASI-NET に対し当該情報の提供を求めることもない。

大型機 ASI-NET についての問合せ先

ASI-NET 事務局（大型機担当：倉重）まで、電話 03-5476-5461、FAX 03-5476-8578 または E メール kurashige@atec.or.jp でお問い合わせください。

最後に

ASI-NET は運航乗務員の皆さんによる運航乗務員の皆さんのためのネットワークです。**運航安全のため、皆さんが経験したヒヤリハットの情報は積極的に社内の安全報告制度に投稿しましょう。**